

事 項	水稻の葉いもちに対する移植時育苗箱施用の防除法		
ね ら い	葉いもちの防除は、水面施用や茎葉散布、航空散布などの本田での防除が主体であったが、移植時に育苗箱に施用することにより、長期にわたり葉いもちを防除することができるプロベナゾール粒剤（Dr.オリゼ箱粒剤）およびカルプロパミド粒剤（ウイン箱粒剤）が登録され、効果が認められたので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 プロベナゾール粒剤（Dr.オリゼ箱粒剤）およびカルプロパミド粒剤（ウイン箱粒剤）を移植3日前から移植当日に箱施用することにより、長期にわたり葉いもちを防除できる。</p> <p>2 使用方法 (1) 処理方法：育苗箱の苗の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水 (2) 使用量：50g／箱 (3) 使用時期：移植3日前～移植当日</p> <p>3 薬剤名等 (1) Dr.オリゼ箱粒剤 ア 一般名：プロベナゾール粒剤 イ 商品名：Dr.オリゼ箱粒剤 ウ 有効成分：プロベナゾール24％ エ 人畜毒性：普通物 オ 魚毒性：B類</p> (2) ウイン箱粒剤 ア 一般名：カルプロパミド粒剤 イ 商品名：ウイン箱粒剤 ウ 有効成分：カルプロパミド4％ エ 人畜毒性：普通物 オ 魚毒性：A類相当 <p>4 安全（適正）使用基準 (1) Dr.オリゼ箱粒剤 ア 対象病害：いもち病 イ 使用量：50g／箱 ウ 使用時期：移植3日前～移植当日 エ 使用回数：2回</p> (2) ウイン箱粒剤 ア 対象病害：いもち病 イ 使用量：50g／箱 ウ 使用時期：緑化期～移植当日 エ 使用回数：1回		
期待される効果	育苗箱での簡便な予防により、本田での葉いもち防除が不要となる。		
利用上の注意事項	<p>1 本防除法は、常発地やいもち病抵抗性弱品種作付地に使用する。</p> <p>2 使用上の留意事項を遵守する。</p> <p>3 散布のムラのないように均一に散布する。</p> <p>4 軟弱徒長苗、ムレ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じる恐れがある。</p>		
担 当	青森県農業試験場 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成7～10年度 青森県農業試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 Dr.オリゼ箱粒剤、ウイン箱粒剤移植当日施用による葉いもち防除効果 (H10 青森農試)

供試薬剤名	使用量 使用時期	病斑面積率				同左防除価	上位葉病斑数(個/株) 8月6日	葉害
		7月10日	7月21日	7月31日				
Dr.オリゼ箱粒剤	50g/箱 移植当日	0	0.005b	0.002b	99.8	0.2b	—	
ウインドアドマイ ヤー箱粒剤	50g/箱 移植当日	0.005	0.008b	0.012b	98.7	0.2b	—	
(対)オリゼメート 粒剤	3kg/10a 初発10日前	0.002	0.007b	0.003b	99.6	0.3b	—	
無処理	—	0.017	0.418a	0.912a	—	6.0a		
F 検 定		ns	*	***		***		

注) 試験場所：農試圃場、品種：むつほまれ、移植：5月21日、葉いもち：中発生（接種）
上位葉病斑数は止葉および止葉次葉。

表2 Dr.オリゼ箱粒剤、ウイン箱粒剤移植当日施用による葉いもち防除効果 (H10 津軽防除所)

供試薬剤名	使用量 使用時期	7月17日		7月30日			8月6日	葉害
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	上位葉病斑 発病株率		
Dr.オリゼ箱粒剤	50g/箱 移植当日	0	0	0 b	0 b	100	0	—
ウインドアドマイ ヤー箱粒剤	50g/箱 移植当日	0	0	0 b	0 b	100	0	—
無処理	—	1.3	1.3	14.7a	3.7a		0	
F 検 定		ns	ns	**	**		ns	

注) 試験場所：木造町農家圃場、品種：むつほまれ、移植：5月11日、葉いもち：少発生
上位葉病斑数は止葉および止葉次葉を調査。

表3 Dr.オリゼ箱粒剤移植3日前処理による葉いもち防除効果 (H8 宮城農七)

供試薬剤名	使用量 使用時期	7月16日		7月26日			上位葉病斑 (個/株)	葉害
		発病株率	病斑数 (個/株)	発病率株	病斑面積率	防除価		
Dr.オリゼ箱粒剤	50g/箱 移植3日前	0.8	0.01	2.5	0.002c	99.9	0 c	—
Dr.オリゼ箱粒剤	50g/箱 移植当日	12.5	0.30	67.5	0.32 b	81.7	2.5b	—
(対)オリゼメート 粒剤	3kg/10a 初発14日前	17.2	0.34	70.0	0.37 b	66.9	2.3b	
無処理	—	11.9	0.27	100.0	1.75 a		5.6a	

注) 試験場所：宮城県、品種：ササニシキ、移植：5月8日、葉いもち初発：7月2日、葉いもち：多発生
上位葉病斑は止葉および止葉次葉を調査。

表4 ウイン箱粒剤移植3日前処理による葉いもち防除効果 (H6 秋田農試)

供試薬剤名	使用量・使用時期	葉いもち (7月21日)			葉害
		発病株率(%)	病斑数(個/株)	防 除 価	
ウイン箱粒剤	50g/箱、移植3日前	36.0	0.95b	92	—
(対)オリゼメート粒剤	3kg/10a、6/29	6.7	0.07b	99	—
無処理	—	100.0	12.17a		

注) 試験場所：秋田市、農試圃場、品種：ナツミノリ、移植：5月13日、葉いもち：多発生（接種）

※ 表中の同一英小文字は Duncan's Multiple Range Test による有意差(5%)がないことを示す。
(参考) 価格：1袋1kg Dr.オリゼ箱粒剤、ウイン箱粒剤 2,500円前後(中苗 4,375円前後/a)